

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

Table with 4 columns: 事業所番号, 法人名, 事業所名, 所在地, 自己評価作成日, 評価結果市町村受理日. Contains details for 'グループホーム プランタンIV 1階'.

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

旭川市の中心部近くで、近所に昔ながらの銀座商店街や多数の病院がある地区に位置するRC2階建ての2ユニット(定員18名)のグループホームです。安心して利用できる料金設定と、併設している整骨院の無料施術サービスが週1回受けられます。また、交通の便がとてよく、自家用車をお持ちでない方でも気軽に訪訪できるのも魅力の一つです。また、こちらの地域は町内会の解散があったものの、なんとか地域に貢献をたく、当グループホームのごみステーションを地域の方々にも使用していただき交流を図っております。職員のスキルアップでは社内研修を年数回行っており、介護の知識の獲得へと努めております。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

Table with 2 columns: 基本情報リンク先URL, URL address: http://www.kajigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action kouhyou_detail 2017 02 2_kihon=true&JigyosyoCd=0172902371-00&PrefCd=01&VersionCd=022

【評価機関概要(評価機関記入)】

Table with 3 columns: 評価機関名, 所在地, 訪問調査日. Details for '特定非営利活動法人 福祉サービス評価機構Kネット'.

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「グループホーム プランタン IV」は有限会社バリーツウドウ(ボルトガル語=なんでもあり)を法人本体として2005年、2ユニット18人で開設された。当事業所は鉄筋2階建てでJR旭川駅に近く、バス停も直近にあり、市街中心部と繋がっていた旧銀座商店街の名残りの住宅街に在る。当事業所の特筆すべき事は法人の名前が示す様に「なんでもあり」の精神であり、それは入居費用を低額にして入居し易くし、町内会解散後は事業所のゴミステーションを地域住民も使える様にし、冬には地域の方々も助け合いながらの除雪を行い、地区包括センターを始め認知症の方の家族も参加する「オレンジカフェ」に事業所として積極的に参加する等して地域の核となる努力を継続し、今ある福祉に貢献していることである。当事業所では『ゆつたりした家庭の雰囲気大切に日々の暮らしの中に笑顔を感じられる介護を目指し、一人ひとりの個性を尊重しながら、健康で楽しい毎日を送れる様に努めます』の理念の元に「チームケアで協力し合える職場に」を2ユニット全体のスローガンとして「1日1回、利用者一人ひとりに声をかけると、利用者の気持ちが伝わってくる」と語る職員が、利用者の為の介護の向上に日々努める「グループホーム プランタン IV」の今後になお一層の期待をしたい。

Large table with 4 columns: 項目, 取り組みの成果 (該当するものに○印), 項目, 取り組みの成果 (該当するものに○印). Contains 10 rows of evaluation data for various service items.

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員の目に留まる所に理念の掲示で周知し、毎月のミーティングで確認している。出来る限り利用者様が笑顔で生活が出来るよう、職員一人一人が自覚を持って勤務にあたっている。	理念は、2ユニット全体のスローガンとなり、そして各ユニット毎の目標となり、職員はそれらを暗記し、毎月のミーティング時に発表する事としており、職員同士話し合い、そして介護の中で切磋琢磨しながら、日々理念の実践に努めている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	近隣の散歩・買い物時には、ご挨拶を忘れずに行き、冬期間は除雪の助け合い・ゴミステーションは事業所の物を使用して地域の一人として交流している。隣のお寿司屋さんのお付き合いも行っております。	当事業所の地域に町内会は無いが、地区包括センターが主催する認知症の方の家族も参加する「オレンジカフェ」に参加する等して、地域に於ける会合、行事等には事業所として積極的に主催し、そして参加することで“地域の核”となる様に努めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	町内会が解散されている為、殆どが関わりが乏しいですが、運営推進会議には民生委員の方の出席もあり、以前事業所で勤務されていた方が近隣にお住まいの為、会議に出席して頂いたり、行事にもボランティアで参加して頂けます。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	最低2カ月に1度は開催し、利用者様、家族様、地区包括、病院、薬局の方、民生委員、近隣の方等の参加を頂いて活動報告・ヒヤリハット等の報告でご意見を頂いています。	運営推進会議は、特筆すべき多人数の出席を得て行われている。医師、老舗薬局の薬剤師、包括センター、同地域に住む元職員、家族が3～4人そして利用者が2人程で、職員と共に活発な議論を行い、その議事録は全家族に送付されている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	地域包括支援センター・保護課の職員様との連携を密にして、協力できる事は行い分らない事は相談できるよう、利用者様の生活向上に努めています。	管理者は、地域包括センター、社会福祉協議会等主催の行事、会合等に積極的に参加することで緊密な連携を取り、又市保護課職員との連絡、相談等を頻繁に行うことでそれぞれへの協力関係の構築に努めている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束マニュアル・必要な時の書面等は用意しています。現状センサーマットの使用の方は、マットの上に車椅子を置いて手で触ると呼び鈴の変わりとなる為、速やかな見守り対応が出来るよう努め、継続が必要かは月1回全職員で身体拘束廃止委員会を開催し取り組んでいます。不審者阻止の為、玄関の施錠は実地されていますが、いつでも利用者様が外出できる配慮を行っています。	言葉遣い等の問題に関して、ミーティング等での話し合いで解決し、若い職員にはその都度注意することとし、事業所が利用者の生活の場であり、そして職員の関わり方で利用者が穏やかになるという意識を持つことで、身体拘束をしないケアに日々努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	毎日の業務の中で虐待に関する知識を高め、利用者とのコミュニケーション、職員のストレス軽減に努めています。外内部研修の参加、全職員ミーティング、身体拘束廃止委員会にて話し合いで自身のスキルアップに繋げ、介助が出来るように徹底しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修の参加は継続し、成年後見人制度を活用されている利用者様がいるので、解らない事があれば都度確認している		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用者様、家族様に説明に関して十分な配慮を行っています。不明な点、不安な点は都度対応しご理解頂けるよう努めています。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関入口(目に留まる場所)に意見箱の設置、運営推進会議等で、要望・疑問等をお伺いし、真摯に対応させて頂いています。常に家族様とのコミュニケーションを大切にしております。	月1回「プランタンⅣ通信」を写真を使用して作成し、通信欄には職員が利用者の生活状況を書き込み全家族に送付している。又、来訪された家族からは直接、時には電話を使用しての聴取を行い、家族の意見、要望の運営への反映に努めている。	現在、全家族の意見、要望の聴取とはなっていない為、アンケート等を利用しての全家族からの聴取となるように努め、その意見、要望を運営に反映させることによって利用者へのサービスのなお一層の充実となるよう期待をしたい。
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	申し送りや、ミーティングを通じ、職員からの疑問点・提案などの情報を共有し話し合い出来る機会を設け、日々の業務に反映出来るよう取り組んでいます。	ミーティング、個別等に於いて活発な意見が出され、常に職員同士、又は管理者とのコミュニケーションが取られ、その意見、要望等が運営に反映されることによって、利用者の為の介護の向上が図られるように努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	介護職員処遇改善加算金手当、交通費、資格手当等の支給を行い、評価に応じて昇給を行う場合もあります。代表者自ら足を運び「困っている事は無いかな？」等、職員個々に声を掛けられている事もあります。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内・外部研修の参加を促し、職員ミーティングでは年間の課題を決め、毎月のテーマに沿ってケアの質を高めるよう努めています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他のグループホームの職員さんとの交流(勉強)会が年に数回開催され、交代で毎回参加出来ています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めています。	アセスメントを基に本人様・家族様の情報から安心して生活できるよう配慮し、納得された生活が継続される様、職員との信頼関係の構築に努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様のお話を傾聴し、ご利用者様が安心して生活が出来る様、相互の思いや考え方に理解を深め、ケアの共有に努め家族様との信頼関係を築ける様努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご自身の見学から始まり、本人様、家族様の話をしっかり傾聴出来る環境を目指し、必要な支援が出来る様努めています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様の意向を確認しながら、気持ちに寄り添い、共感受け止め、一緒の立ち位置で職員との信頼関係の構築に努めています。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時・月末の通信等でご利用者様の近況報告をさせて頂き、面会のしやすい環境を目指し、家族様と職員の信頼関係の構築で、疎遠防止に努めています。遠方の家族様には電話での関わりにも努めています。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会が途切れない様に、関係の継続に配慮し安心して面会が出来る様、場所・時間の提供に努め笑顔で対応出来る様努めています。	介護度が変化する中で馴染みの人、場は途絶え気味となることもあるが、元気な利用者は近所のカラオケ屋が馴染みの場となり、そして元教師の利用者の元に、昔の教え子の多くが今だに訪ねて来ることに職員は支援し、感動もしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人一人の精神的な病気・性格等に配慮し、周りの状況を見極め、日課の中での関わりで、行事で、利用者同士の交流支援に努めています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も経過把握やご家族様からの相談も受け付け、関係性を大切にしております。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人の気持ちを一番に考え、ご家族様と相談しながら意向に添えるよう対応に努めています。	入居時の利用者本人、及び家族からの聞き取りを始めとして、今利用者本人からの聞き取りが困難な場合は家族からの情報を確認し、寄り添いながらの日々の介護の中で、終末期、看取りを含めた意向、思いの把握に努めている	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	日常の会話から見られる気持ちなどの情報は記録に残し共有し、アセスメント等の共有と把握に努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の生活の中でご自身の様子面の変化に配慮出来る様、職員間で情報の共有と確認に努めています。申し送りには口頭・記録等を利用し24時間体制の把握に努めています。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎日の関わりから、利用者様の変化に素早く気づきを持つよう努め、現状のケアのあり方についてモニタリング・サービス担当者会議等で現場の意見を出し合いプランの作成に努めている。	利用者の生活に対しての介護計画に長期、短期の目標を設定し、状態に変化があれば6ヶ月から1年で見直すこととし、この介護計画が利用者の日常生活の中心となるよう日々努めている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	各個人様の経過記録・介護記録等利用し、情報を共有しながらプランの見直し参考に役立てています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ホームで出来る事の取り組みは、柔軟に支援できるよう、取り組む姿勢に努めています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源の活用は高齢化社会に沿った充実の介護環境が作れます。日々生活の中で、その方に合った支援を可能な限り模索し対応致します。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居と同時にかかりつけ医と事業所の関係を築き、往診・受診・相談等連携を図っています。救急の場合にも利用者様、家族様が安心して医療が受けられるよう支援しています。	利用者の従来からのかかりつけ医の継続を基本とし、通院には職員が付き添い、又往診も可能となっている。訪問看護師も週1回となり、そして1階に併設されている整骨院による利用者への週1回のマッサージは無料とし、利用者の健康管理、健康維持は万全の体制となっている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職員は利用者様の些細な情報も看護職員と情報を共有し、常に報告・連絡・相談等連携を図っています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	スムーズな退院対応出来る様、日頃から担当Dr・看護師と連携を図り、病院・家族様との信頼関係の構築に努めています。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に意見確認書等、書面にて確認し重度化してきた場合には担当Dr・家族様と話し合いが出来る環境を目指し対応しています。	当事業所では看取りを行うこととして、職員はミーティング等の中で看取りの研修を行い、事業所での看取りが不可能な場合も、最後のぎりぎりまで利用者の居室で職員が見守ることとしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応マニュアルを作成して、常に職員がそばにあり観覧出来る体制にしている。実際に起きた事等、情報の共有で職場内では、緊急時の対応について繰り返し研修の実施。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練は夜間想定・昼間想定等、全職員で繰り返しの訓練実施。運営推進会議に於いて避難時の協力をお願い等も議題に取り組み対応している。	自然災害を含めた防災に関するマニュアルを整備し、その避難訓練には利用者も参加している。当建物は鉄筋造りであり、災害発生の場合は2階ユニットに全員が避難することとし、全家族に周知し、災害から利用者の身を守る為に日々努めている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	体調・気分等の把握で会話・声掛けに配慮しその方の心に寄り添い合わせた対応を心がけています。	利用者への呼びかけは苗字に“さん”づけを基本としている。職員はミーティング、研修等で、又はその都度確認し合い、利用者一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保に日々努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	言葉に出せない事等、表情・行動等から今何をしたいのか？して欲しいのか？見極め、耳を傾ける事に心がけ、利用者様を尊重して自己決定が出来る様、支援しています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日・その日・その人・その人に合わせた対応支援を実地。出来ない所の支援でその人らしい生活に支援。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節・TPO等、清潔に配慮し出来ない所のお手伝い・声掛け・関わり等で支援しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	個々の残存能力、心身の状況に合わせてながらお手伝いの声掛けをしておりますが、介護度の高い方が多い為、出来る事が限られて来ます。その方に合わせ、食器、盛り付けの工夫・味見をして頂いたり・声掛けしながら食事の説明等の関わりに努めています。	献立、食材は外部業者となっており、調理は利用者の要望に対応したり、季節感のあるように職員が行い、利用者は呼び掛けに応じた方がその能力の範囲で手伝うこととし、年間行事として年に何回かの外食もあり、誕生日会には特別メニューとし、利用者と職員は同席同食として日々の食事を楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の体調に合わせて刻み、ミキサー・トロミ・栄養補助食品の活用・提供時間の工夫等の対応に担当Drの指示を頂きながら支援しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアの促し、声掛け、介助等関わりから、健康管理に努めています。口腔ティッシュ・スポンジ等個々に合わせた対応を継続中。定期的に歯科往診の関わりも対応しています。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の残存能力に合わせて、誘導、声掛け、介助等で関わり、利用者様の様子、動き、表情、排泄表等から把握し対応している。習慣を活かして食後の排泄誘導は実地されている。	トイレでの排泄を基本とし、全介助の利用者も失禁等を考慮して普段は紙パンツを使用することとしているが、時間、排泄サインを見逃すことなく誘導を行い、トイレでの排泄に日々努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	体調の把握と排泄表から、個々のパターンの把握に努め、水分・運動の促し、食事に配慮し、Dr指示の服薬対応で予防に努めている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴の曜日、時間帯は決めさせて頂いておりますが、入浴出来なかった方は後日、シャワー浴等の対応可能な時間帯もあります。「入浴」の理解が乏しい方は、繰り返し声掛けの支援に努めています。個々に合わせた入浴法で支援しています。	入浴は週2回を基本とし、利用者の体調等を考慮しながら個別に対応することとしている。入浴を嫌う利用者には話し掛けを工夫したり、対応する職員を変えたりしながら、利用者にとっての気持ちの良い入浴となるように努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	居心地の良い場所の提供に配慮する。安眠・休息が出来る様、整理整頓・リネン替え・昼夜問わず安否確認の実地・換気等に努める。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋は、いつでも確認出来る様に個人のファイルに綴じており、変更時には口頭で伝え経過観察等、共有している。日付の記入で飲み忘れ防止、服薬時には職員同士で名前等、言葉に出して確認し事故防止に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご本人の情報はアセスメントを活用し、現状の体調を踏まえ、喜び・楽しみが提供できるよう個々に合わせた気分転換のお手伝いを支援しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	近隣のお店におやつ等の買い出し等で、気分転換をして頂くよう努め、季節に合わせて外気に触れる行事等、工夫に努めています。	利用者の体調により、日常の散歩が少ない時もあるが、利用者の希望があれば買い物に職員が同行し、買い物の代行も行う等個別に対応している。又、2階ベランダでバーベキューを行う等日光に触れる機会が多くなるように努めている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭の管理には理解力が乏しい利用者様が殆どで、トラブル防止の為、施設にて管理している。ただ必要に応じて、利用者様の能力に合わせた対応が出来るよう努めています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者様がいつでも訴えが出来る様、信頼関係を築き、都度、出来ない所の支援に努めています。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	自室以外でも安心して穏やかな気持ちを持続できるスペースになるよう、季節感を取り入れ、行事の案内、写真、飾り付け等にも配慮された空間作りに努めています。ホールでは食事以外にも、お茶・おやつ・ラジオ体操・行事等、幅広く関わり、利用者同士の交流の場となるよう努めています。	共用空間は、鉄筋コンクリートの壁を白くすることで温かみを感じられ、大きめの窓からは柔らかな陽が射し込み、食堂、ホールには「仲間がいっぱい、みんな一緒に楽しい」と語り「笑顔を感じられる介護を目指す」職員と利用者の笑顔が溢れ、そして時には利用者のカラオケの歌が流れることもある。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合った利用者様同士が同席しお茶の時間を楽しんだり、一人でリハビリ運動をされたり、新聞を読まれていたり、思いのままの時間を過ごす事が出来るよう安心された居場所の提供に努めています。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自室では一人に成事が多い為、ゆっくりと安楽な時間が過ごせる事が出来るよう、整理整頓・リネン替え・清掃等の配慮に努めています。	居室は、利用者の使い慣れた家具、調度品、そして家族の写真等が置かれ、電動ベッドは事業所の無料貸与となっている。「介護は大変なことではないし、利用者の思いが伝わってくる」と語り「健康で楽しい毎日を送れるように努める」職員の介護の中で、利用者は安全、安心の日々を暮らしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者様一人ひとりの症状に合わせ、目で見て安心出来る工夫対応を行い、夜間は自立の方でも安心して頂く為に、トイレの点灯の配慮に努めています。		